

特集1
special feature

皆さまとともに歩んだ

図 交通部管理課(☎017-726-5459)

日本で2番目に
歴史のある公営バス!

1926
大正15年

青森市営バスの発足

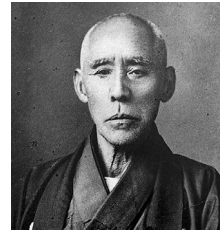


篠原氏から寄贈された車両6両(大正15年頃)

篠原氏の篤志で発足した 公営バス事業

大正15年3月6日、実業家の篠原善次郎氏から乗合自動車6両と運営資金1万5千円の寄附を受け青森市営バスが発足した。公営のバス事業者としては都営バスに次ぐ歴史を有する。

市営バスの祖



篠原善次郎
(1855年-1930年)

安政2年、鹿児島で生まれ農学を学んだ後、明治15年まで北海道庁の前身である北海道開拓使庁に勤める。その後、青森市に移り青森一弘前間の乗合馬車による貨客輸送や本州と北海道の交易を行うなど本市産業界に重きをなした。

製炭の自営で 市民の足を守る

1938
昭和13年

戦時下での経営

戦争の進展は統制品目の枠を広げ、ガソリンに加えて木炭もその品目に編入されたため、製炭の自営を始め、燃料の自給に努めた。

戦後の復興

昭和20年7月28日の青森空襲により、全ての交通手段を失った市民を不眠不休で輸送し復興を支えた。



職員による製炭(昭和13年頃)



旧青森市公会堂と市営バス(昭和20年)
【写真提供】青森空襲を記録する会

市営バス事業の 飛躍

1956
昭和31年

拡大する路線網

路線の拡大に伴い、昭和31年から32年までの間に八重田営業所(旧東部営業所)を建設。昭和34年には油川営業所、小湊営業所を設置。昭和30年代後半には竜飛や、平内町の清水川駅まで運行するに至った。

モータリゼーションの到来

1965
昭和40年



混雑する道路状況(昭和44年)



合理化のため導入された
ワンマンカー(昭和40年)

高度経済成長期にはモータリゼーションが進展した。街には車があふれ、道路交通の混雑などにより、乗客の減少を招くなど経営をひっ迫する原因ともなった。

持続可能なバス交通への取組



2019
平成31年

多言語バス停標識の設置

平成31年3月、外国人観光客の受入強化のため、主要観光スポットなど33か所に多言語表記(英語、簡体字、繁体字、韓国語)のバス停を設置した。

2023
令和5年

GPS機能を活用した 時刻表サービス

令和5年3月22日、GPSの機能を活用し、バスの遅れなどの運行状況をスマートフォンやデジタルサイネージ(市役所本庁舎、駅前庁舎、青森駅前発売所内へ設置)で確認できる「バスロケーションシステム」と「あomorimay時刻表」を導入した。加えて本サービスで用いる運行情報をGoogleマップへも提供している。

バスがどこにいるか
分かるようになったよ

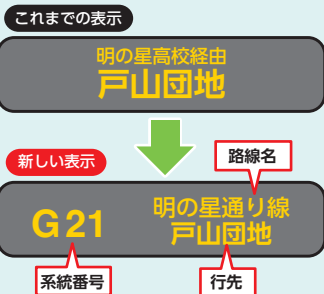


2020
令和2年

系統ナンバリング 表示の導入

令和2年3月23日、初めてバスを利用されるかたや、外国人観光客が利用しやすいように、路線名にアルファベット、行先に数字を割り当てた系統ナンバリング表示を導入した。

青森駅発↓戸山団地行の場合



どこを通るのかが分かりやすくなりました。
記号・番号だけでも経路や行き先が分かります。

2022
令和4年

AOPASS(アオパス)の導入

令和4年3月5日、地域連携ICカードAOPASS(アオパス)を導入した。Suica機能が搭載され、バスのほか鉄道など対応した公共交通機関などをキャッシュレスで利用できる利便性から、多くのかたに利用され、現在、総発行枚数は4万枚以上となっている。



Suica機能が
搭載!

小学生が車載器を製作

令和4年7月30日、31日の2日間にわたり、市内の小学生を対象としたバスロケーションシステムに使用するGPS車載機器の製作ワークショップを開催しました。製作した車載器は現在も実車に装着され、活用されています。



青森市営バス100年

バスカードの発売開始

平成4年11月、県内初のプリペイド式バスカードの販売を開始した。



1992
平成4年



LED式行先表示器の導入

平成11年11月、LED(高輝度発光ダイオード)式行先表示器を導入した。従来の方向幕に比べ、早朝や夕暮時、夜間における視認性が向上した。



見やすくなった!

1999
平成11年

東日本大震災における職員派遣

平成23年3月11日、未曾有の大災害となった「東日本大震災」。青森市においても震度4を記録した。地震発生から1か月後の4月11日には未だ余震が



頻発するなか、大きな被害を受けた岩手県陸前高田市の被災者を支援するため職員4名を派遣した。

2011
平成23年

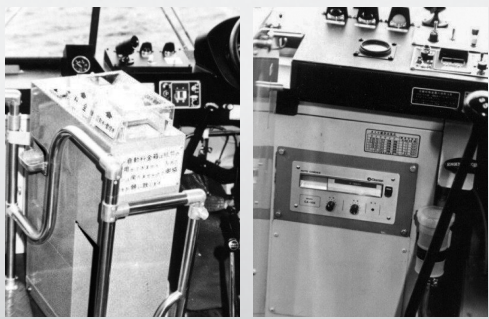


1973
昭和48年

経営再建への取組

ワンマン化の推進

高度経済成長による物価高やモータリゼーションの到来などの苦境を乗り越えるため、路線の再編やワンマン化の推進を骨子とした経営改善に取り組んだ。



自動循環式両替装置

車内放送用ハチトラカセット



運賃表示器



整理券発券機

ワンマン化とともに変化した車載装備

現在ではなじみのある車載装備品も、ワンマン化の進展に伴い導入された。

2026年、青森市営バスは100周年を迎えました

2026
令和8年

青森市営バス公式マスコット「はまるん」の誕生

青森市の花「はまなすの花」の実がモチーフで、デザインは世界的に大人気のゲームキャラクターの生みの親として知られる「にしだあつこ」さんが担当。マスコットの名前は市民を対象とした公募で決定。松浦妃花(まつうらひな)さん5歳の考案した、ハマナスの「はま」にバスでルンルンお出掛けの「るん」で「はまるん」が採用された。



はまるん

ネーミング募集表彰式



100周年記念事業

青森市営バス100周年を記念して、様々な取組を行っています。



公式マスコットグッズ販売

はまるんグッズが4月1日販売開始。ぬいぐるみ、ピンバッジ、ステッカーの3種類はどれも「にしだあつこ」さん監修。ハマナスの花言葉は「旅の楽しさ」。はまるんと一緒にお出掛けしよう!

【発売所】 東部営業所/西部営業所/青森駅前発売所/NTT 青森支店発売所/青森ふるさとショップアイモリー(ねぶたの家ワ・ラッセ内)/あおもり北彩館三内丸山店



ぬいぐるみ 3,300円
※金額はいずれも税込み



ステッカー 440円



ラッピングバス



市役所本庁舎1階



子ども車内アナウンス

青森市子ども会議委員11名に協力いただき、停留所案内40か所、観光地などの紹介14か所を収録しました。4月1日から1年間車内放送を行う予定です。

バスカード交通ポイント交換キャンペーン

バスカードの残額をAOPASSの交通ポイントへ移行できるキャンペーンを実施。期間中は払い戻しでは切り捨てとなるプレミアム分もそのまま交通ポイントへ移行できます。【期間】令和8年4月1日~令和9年3月31日

無料乗車デー

青森市営バス全線無料キャンペーンを行います。【実施日】令和8年9月の全ての日曜日(6日・13日・20日・27日)

西秀記市長メッセージ

おかげさまで青森市営バスが100周年を迎えました!

青森市営バス100周年を迎え、市民の皆様の長年のご愛顧に心より感謝申し上げます。これからも社会情勢の変化に対応しながら、利便性の高い公共交通ネットワークを築き、次の100年に向け職員一丸となってサービス向上に努めてまいります。

